

Title	<紹介>富田志津子著『播磨の俳人たち』
Author(s)	仲,沙織
Citation	語文. 2010, 95, p. 65-65
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69165
rights	
Note	

## Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

## 富田志津子著『播磨の俳人たち』

と姫路の風羅堂一門の活動を主軸として展開する。ら成る構成をもち、播州の二大俳壇であった加古川の栗の本一門する。加古川・姫路・高砂・加西の地区ごとに分類された四章か本書は、近世期の東播磨の俳人たちの活動に関する論考を収録

仲沙

織

俳壇への志向との関連性について考察が行われている。彼の門人となった加古川の俳人たちがもつ俳諧中興運動に沸く京に、京都の俳人と交流し、芭蕉その人を顕彰する青蘿の俳風と、どの門人達を中心に、俳壇の形成と発展について論じている。特松岡青蘿と、一門を支えた播州林田の三木家の人々や田中布舟な松間青蘿と、一門を支えた播州林田の三木家の人々や田中布舟な「1 加古川の俳諧」第一章「栗の本一門」では、創設者である「1 加古川の俳諧」第一章「栗の本一門」では、創設者である

を盛り立てた寒瓜、芭蕉百回忌における第二次風羅堂建立に携 を盛り立てた寒瓜、芭蕉百回忌における第二次風羅堂建立に携 五十回忌に風羅堂を建立するなど多くの事業を行って風羅堂一門 第二章「風羅堂一門の形成と展開」では、元禄十五年(一七〇 第二章「風羅堂一門の形成と展開」では、元禄十五年(一七〇 第二章「風羅堂で建立するなど多くの事業を行って風羅堂一門 の非 を果たした経緯が論じられる。その後、千山の息子であり、芭蕉 を果たした経緯が論じられる。その後、千山の息子であり、芭蕉 を果たした経緯が論じられる。その後、千山の息子であり、芭蕉 のは、元禄十五年(一七〇 第二章「風羅堂以前の様相」では、近世初 「川 姫路の俳諧」第一章「風羅堂以前の様相」では、近世初

まで続いた風羅堂一門の事跡を追う。わった寒鳥・寒鴻・寒桐などの井上家の俳人たちを中心に、近代わった寒鳥・寒鴻・寒桐などの井上家の俳人たちを中心に、近代

□ 高砂の俳諧」「N 加西の俳諧」では、俳諧の盛んであっ 「回 高砂の俳諧」「N 加西の俳諧」では、俳諧の盛んであっ

諧文化の豊かさをも提示している。
書は、播磨の俳諧史を明らかにするとともに、近世期における俳
このように、広い視野による考察と精緻な分析とを併せもつ本

(和泉書院、二○一○年一月、二八七頁、九四五○円)

(なか・さおり 本学大学院博士前期課程)